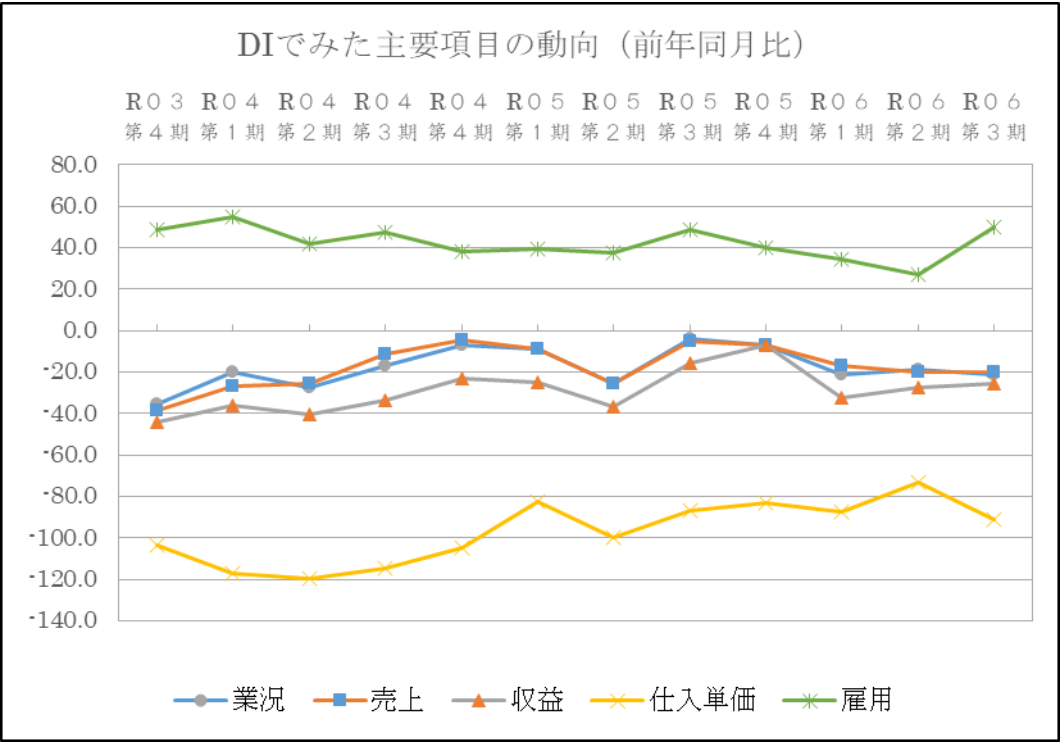


景気動向調査 令和6年度・第3期（令和6年10月～令和6年12月）

調査概要

調査対象:赤穂商工会議所管内 120社
回収:90社 回収率:75.0%
調査対象期間:令和6年10月～令和6年12月(令和6年度・第3期)
DI値:「良い＋やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い＋悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計DI

区分	R6第2期 (R6年7月～9月)	R6第3期 (R6年10月～12月)	先行き見通し (R7年1月～3月)
業況	△18.8	△21.1	△10.0
売上	△20.0	△20.0	△11.1
収益	△27.1	△25.6	△12.2
仕入単価	△72.9	△91.1	△72.2
雇用	27.1	50.0	47.8

※雇用 DI については、数値が大きいほど人手不足感を表す

- 今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査(R6年2期)に比べ2.3ポイント下降の△21.1となった。売上DIは不変で△20.0、収益DIは1.5ポイント上昇の△25.6となり、また仕入単価は18.2ポイント下降で△91.1、雇用DIは22.9ポイント上昇の50.0となった。
- 先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果(R6年3期)に比べ11.1

ポイント上昇の△10.0 で、売上DIは 8.9 ポイント上昇の△11.1、収益DIは 13.4 ポイント上昇の△12.2、仕入単価DIは 18.9 ポイント上昇の△72.2、雇用DI は 2.2 ポイント下降の 47.8 となっている。

売上 D I

区分	R5 第 3 期	R5 第 4 期	R6 第 1 期	R6 第 2 期	R6 第 3 期	先行き 見通し DI	先行き 期待感
全体	△4.9	△7.3	△17.2	△20.0	△20.0	△11.1	8.9
建設業	△75.0	△33.3	△14.3	△21.4	△50.0	△50.0	0.0
製造業	13.6	0.0	△8.0	△37.5	0.0	△17.4	△17.4
卸売業	10.0	20.0	△9.1	0.0	0.0	10.0	10.0
小売業	7.7	△36.4	△29.6	△20.8	△40.7	△14.8	25.9
サービス業	0.0	40.0	10.0	42.9	20.0	30.0	10.0
不動産・ 運輸業	△25.0	0.0	△66.7	△50.0	△37.5	0.0	37.5

○産業別の売上DIは前回調査(令和 6 年2期)と比較すると、製造業が 0.0(+37.5 ポイント)、不動産・運輸業が△37.5(+12.5 ポイント)で改善、卸売業が 0.0(±0.0 ポイント)で不変、建設業が△50.0(△28.6 ポイント)、小売業が△40.7(△19.9 ポイント)、サービス業が 20.0(△22.9 ポイント)で悪化となった。

また、全体の先行き見通し DI は今回調査結果(R6 年3期)と比較し△11.1(+8.9 ポイント)となっている。

経営上の問題点 (上位 3 項目)

区分	R5 第 3 期	R5 第 4 期	R6 第 1 期	R6 第 2 期	R6 第 3 期	前回調査比
売上の停滞・減少	34.1	29.3	26.9	28.2	26.7	△1.6
人手不足	25.6	24.4	22.6	18.8	23.3	4.5
原材料高	14.6	11.0	16.1	20.0	18.9	△1.1

○事業所からのコメント

製造業：鉄鋼業績の低迷により、全体的な量が減少し、固定費が上がっている。

来年も原燃料費の高騰が見込まれ、価格改定の要請が必要。

運輸業：人材確保のための給与見直しで固定費が上がり収益を圧迫している。

仕入単価に少しでも反映できるよう対応したい。

<参考>

有効求人倍率

区分	R6.10月	R6.9月	R6.8月
一般(常用)	1.14	1.10	1.00
パート(常用)	0.98	0.94	0.85
一般+パート(全合計)	1.06	1.02	0.93

